

本興寺だより

令和六年 二月
第二五四号

「この生を空しくすることなかれ」

(宗祖 守護国家論)

元日の能登半島沖を震源とする大地震から、ひと月になります。奥能登をはじめとして、県内全体、隣県に至るまで、尊い命の犠牲も多く、家屋、道路、インフラなど、多大な損失が出ています。

私も地震発生時は本堂でお参りをしていましたがすぐに燈明を消しましたが、不思議に外へ逃げた気がしませんでした。本堂が壊れずに長い揺れが早く収まって欲しいとの思いだけでした。家屋の倒壊で命を落とされた人も、こういう気持ちの人も多かったのかなと思います。

地震のあちこちの被害状況を知るにつけ、生と死は正に紙一重、「一寸先は闇」という言葉をまざまざと見せられた気がします。禍は突然起こります。事故も事件、災害も。人も心臓が止まれば即、死を迎えます。そう考えれば、今生きていることは「当たり前」ではなく、**有難いこと**なのだとしみじみ感じます。人は自分の一生を考える時、何処かで災難に遭うことは想定していません。病気になることも、身体が不自由になることも、平均寿命以下で一生を終えることも想



定していません。世の中の半数の人がどれかに該当しても自分だけはそうならないと思っと思っています。そうなりたくないという思いが、無意識に絶対ならぬなどの思いに変わり、平凡な日常への感謝の気持ち忘れがちになるのだと云われます。人、動物、植物など全ての生命あるものはしっかりと大地に育まれ、その中で命が営まれています。空中に浮かんでいる命はありません。その母なる大地から受ける恩は限りないものがあります。しかしその大地が時として、激しい牙をむきます。人間の力ではどうすることも出来ない大きな力です。

仏様は、大地震の起こる因縁の第一に、大地、水、火、風、虚空(空)の五行の自然界の乱れによりバランスが崩れることを説かれています。この大地は水に支えられ、水は風に支えられ、風は虚空に支えられている。大風が吹く時、水を動揺させ、同様した水が大地を震動させる」と云われます。

人間は小宇宙だと云われます。心も身体も自然界の縮図を持っています。一人一人の心の持ち方も身体も、自然界から大きな影響を受け、また自然界に大きな影響を与えると云われます。良きも悪しきも。そのことを忘れずに、生き方、行いを正していけと云われています。万人共通の良き心、良き生き方が大難を小難へと転じる力ともなる」と云われます。

災害の時ほど、助け合いと、被災者への心の共鳴が大切だと誰もが思っています。今、珠洲の避難所に身を寄せている知人が言っていました。「避難所でも盗まれることがある」「軽トラックで昼徘徊し、夜荷台に積んでいたバイクを下ろして目ぼしい家を物色する者がいる」とのこと。

被災地で防犯カメラを千台ほど増やすとのことです。が、ボランティアとして現地で協力される人の尊い心の反面、一部で人の不幸に目を輝かせる心を持つ人がいることは残念なことです。

日蓮聖人は、冒頭の文のように、どんな時でも今生きているこの生を空しくしてはならないと云われています。人はそれぞれの立場で皆懸命に生きています。色々な悩みを抱えながらも。時には自分の存在を空しくやりきれないと思うこともあるでしょう。例えば自分の希望が打ちひしがれた時、自信を無くした時など生きていても意味さえ見失ってしまっうことがあります。それでも**勇気を出して、助け合ってしっかりと生きていかなければならない**のだと云われます。

厳しい冬は必ず暖かい春になります。どんな辛い試験の冬に遭遇しても、その時に体験したことは何時かは新しい芽となって花が咲きます。

宗祖は、**法華経は生死の闇を照らす太陽である**と云われています。生死とは、生から死に至る人生の中で、体験、経験する精神的、肉体的あらゆるものです。生命をこの世だけと思ひ、死を恐れ、目を塞ぐのではなく、**過去・現在・未来に続く永遠の命を知って、**

大宇宙のリズムに調和した生き方、他人との協調、信頼される生き方が己の幸せを引き寄せるのだと云われます。

心の持ち方が大切だと皆思っていますが、それが人生、運命にどれだけ大きな影響を与えるかは気づかないと云われます。

心の持ち方が運命を変え、人生が変わるのです。人は身体で犯す罪は目に見えるが、**心(意)**で犯す悪い行為は見えない故に限りなく大きいとも云われます。

日蓮宗総本山身延山久遠寺のトップの内野法主猊下が一月二十一日に九十九歳で遷化されました。生涯現役で、生前インタビューに「長生きの秘訣は何ですか？」と聞かれた時、即座に「**節制と使命感**です」と答えられました。

人は、自分に厳しく節制をした日々を過ごして人生でしっかりとした使命感を持つて心を通じ生きてることが長生きに通じることを身をもって示されたと思います。

立春(二月四日)は、冬から春へと季節が変わる日。

前日の節分は、豆を撒き、邪鬼を祓い、鬼を外へ追い払い、福を家内へ呼び込むことを目的としています。心の中に住む**赤鬼**(悪い心の象徴)貪欲など) **青鬼**(悪意、憎しみ、怒り) **緑鬼**(怠け、不摂生) **黒鬼**(疑い、愚痴) **黄鬼**(白鬼) (甘え、執着)の邪鬼を祓い、新たな年を新たな気持ちで生きたいものです。人生はカラフルでも、心に**カラフル**な鬼はいらないのです。合掌 本興寺住職 中 谷 聰 秀

